わがY・S・D.の『隠れた魅力』

山とスキーと温泉とついでに地酒も。

安達 邦彦

会に入って3回目の正月を迎えました。この間に東北，上越，アルプスと足をのばしてきましたがこのあたりで（原稿枕の？）誌上をお借りして会活動を振り返ってみることにしました。

山行の記録をみると当会の活動の場が上越とくに谷川岳や巻機山周辺にあることが第一に目につきます。これら上越の山々の雪積や交通の便を考えればすべて納得のゆく所です。今年もこの山域の企画が沢山立てられることと思いますが，そのうちガイドブックにあるような危険なコースは滑りやすくしてしまった経験あり（私は見ていないが沢山あるのですが）これからは「八甲田」のようにガイドブックにない所の山行も必要と思います。

次に山行記録をもう少し注意深く読んでみると，もう一つの特徴に気がつきます。それは当会の山行の延べ数には明らかに「山」が対応しているということであります。もちろん日本の山岳の大半が火山性の山脈であり，山のところには必ず湯があるという「地質学的」な要因も考えられますが，信州会館の電話番号や湯沢の駅前温泉，さらには盛岡駅前の銭湯の所在まで熟知しているという事実を「地質学的要因」のみで説明することには少し無理がある様です。私の他にも清水の酒や土樽周辺にもがあればもっと良いのにと思っている人がいるのではないかな。

これらの事実を考えれば，山とスキーと心を三位一体にした活動こそ当会が最も得意とする山行形態であり，入会して初めてわかる当会の「隠れた魅力」なのだということができます。

かくてガイドブックにない山行に対する考え方として，①上越沿線を中心とした山域，②会員のある山域，という2つの山行のタイプが得られたことになります。

去年の「会員の皆様に望むこと」の言葉にもがあったが，「[illegible]」ということにもなります。

[illegible]の研究はどうしたのかとの[illegible]ですが，[illegible]なんですよ。あーもったいない。

なんと2回めの 天神平 初滑り

11/26～27

今年も待ち遠しかった雪が早くから降り11月下旬から初滑りを楽しんだ。

1日目は晴天で雪もかなり積っていたが人も多かった。同志会のメンバーはいつものごとく新雪もしを楽しんでいた。しまいには天神峠リフトの下まで進出し，2回目にはついにパトロールの方から注意をうけてしまった。

2日目は雨の方雪，私達が帰った後は止んだそうだが雨にも負けず風にも負けず雪の中をさて滑っていた人もいた。中にはソルトの内で，昨夜の宴会の続きか？酒うな人も多かった。

（土曜日にはキ研でスキー場きて他のスキー場が戸，まこと[illegible]で11/27までヘリスキーをやっていた。1人当たり1回なんと3,500円だそうですよ。）（古川記）

参加メンバー

11/26～27

伊藤(ひ)，小森岩，郡司，作野，吉沼，藤原，高野，長谷川(博)夫妻，針谷，有藤，陶山，矢野，西川，佐藤(昌)，古川

11/27のみ

柳沢，石垣，山崎　　計19名